

檀信徒各位

秋季彼岸法要のご案内

聖名 豪雨や台風、地震に見舞われた夏も終わりを告げ、
秋のお彼岸を迎えます。

皆々様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

秋季彼岸法要を下記のように勤めます。

ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいます
ようご案内申し上げます。 合 掌

平成24年9月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

記

※期 日 9月22日（土）秋分の日

※時 間 午後1時より音楽法要・ご回向^{えこう}
午後2時より法話と歌唱指導（音楽法要の歌）
今回は（一心に敬って）お経の解説

※ご回向料

普通回向 1霊につき1,000円 以上 志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意志納下さい。

本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※郵便振替等で申し込まれる方も位牌型をお送り下さい。

※お袈裟をお持ちの方は着用の上、法要にご参加下さい。

釈尊の生涯

修行の地

ビンピサラー王の寄進・竹林精舎

釈尊はウルヴィルヴァアをあとにラージャグリハに向かった。ラージャグリハの町まちは釈尊の一行よりも早く、「釈尊はウイヴィルヴァアで千人の異教徒を一時に弟子とした」という情報が流れていた。この情報を耳にした国王シュレーニカ・ビンピサラーは釈尊を待ちかまえてその説法を聞いて、帰依者となった。王は釈尊とその多くの弟子たちに修行の場のないことを気づき、ラージャグリハの入口の外側にあるヴェースヴァナの園を仏教教団に寄進した。このヴェースヴァナの園は首都から遠からず近からず、往來に便利であって、すべての希望する人々が行きやすく、昼でも喧騒なく、夜はまたさらに静かで、瞑想に適している。仏陀を上首とする

修行僧のあつまりにふさわしいこの広大な土地が、王権が次第に強化しつつある時期に寄進されたことは、初期仏教教団発達に基礎を与えることになった。この広大な土地にラージャグリハの長者たちは釈尊の許しを得て多くの房舎を建てた。これらの建物は仏教における最古の精舎「ヴィハーラ」であり、竹林精舎という名で親しまれている。



シリーズ お葬式

一、葬儀式について

法然上人が浄土宗を開宗された時代は、それこそ人の寿命は現代に比べると非常に短く、また伝染病などで多くの命が失われたりするなど、死そのものがもつと身近にありました。ですが、現在は医療の発達や環境の変化などにより、死というものの親近感は薄れてきています。このごろでは死を迎える場所はほとんどが病院になり、家族が見守る中で息を引き取ることはずいぶんと減ってしまいました。かつては臨終の人の手に五色の糸を結んだり、来迎仏（らいこぶつ）の掛け軸を掛けるなど、死を迎える準備をそれこそ家族でしたものです。また本当に死んでしまったのか、蘇生するのではないうだろうか、こういったわずかな望みを家族が断つのに、時間が必要でした。

こうした昔からのさまざまな慣習やしきたりなどが集大成されてきて、現在の葬儀式（葬儀）があります。ですから、一見なんのためなのかわからないような事でも、それなりの理由があるのです。

このシリーズでは葬儀はもとより、葬儀にまつわるいろいろな事をこうした成り立ちを含めて見直してみたいと思います。

喪主になる機会は、ふつう一生に一度あるかないかといえますし、また、親族になることも限られています。ですが、死は老若男女も季節も時間も問いません。突然訪れるものです。

ですから、そうした時にあわてず臨むためにも、このページをお役立てください。

出典 浄土宗ホームページ

法然上人絵伝

第二巻第四段

摂政九条忠通、車上から上洛の勢至丸に礼をおくる



第二巻第四段①

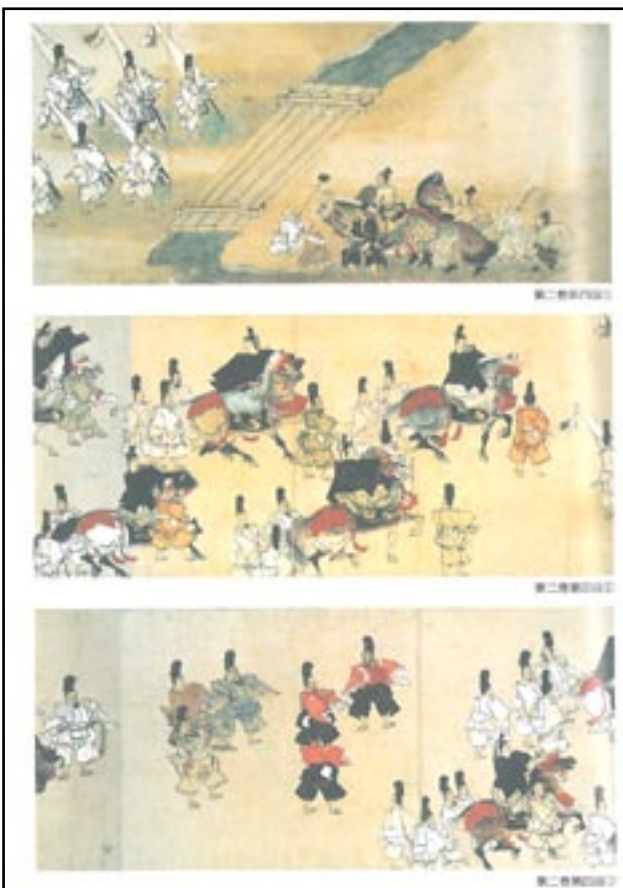
久安三（一一四七）年二月、十五歳になった法然上人は、故郷美作をあとに上洛した。春の花に色どられた都に入り、新しく造られた道を愛でながら、橋のところまでくると、前方より物々しい行列が近づいてくる。これは身分の高い人の行列であるに相違ないと思つた法然上人は馬から降り、上人のお供をしてきた武士や僧侶らも道をよけて川の中に入つたり、橋のたもとにひざまずきながら、行列の過ぎさるのを待った。長い行列の middle に大きな飴牛（黒褐色の牛）に引かれた一輛の牛車が続く。

牛車の袖や物見の戸には美しい草花が描かれ、巻き上げられた前スダレから、中に乗っている貴人の直衣（公家や貴族の平常衣）や指貫（すそ口にくくりを通した袴）の一

部が見える。

牛車の大きな車輪の近く、轅越しにかわいい少年が僧を従えて立てている。これが法然上人である。『四十八巻伝』によると、行列は当時の摂政の役にあつた九条忠通の一行であつた。車が勢至丸の前にさしかかると、忠通は車を止めて物見の窓を開け、「この少年はどこの誰か」と尋ねた。するとお供の僧が、事の次第を忠通に告げた。忠通は礼を送り、やがて車は過ぎ去つた。お供の人々はこのハブピン

グに驚き不思議がった。その後で忠通がいうことには「路次であつた少年はただの人ではない。あの少年の目から鋭い光が出ていた。そこで私は車を止めて礼を送つたのだ」と言つたという。摂政九条兼実は法然上人に心から帰依したひとりであつた。忠通はその兼実の父親である。『四十八巻伝』では父親の言葉を聞いた兼実が、このことを心の底にとどめておき、やがて法然上人の大檀越になつたという結びつきの証拠にしている。





完成予想図 写真はイメージです。

聖観世音菩薩像 現在 鑄造中です。

8月に入り、観音様のお像の鑄造が始まりました。

完成まで約3ヶ月かかります。

観音様建立に際し、皆様方には、お写経、銅板、真鍮板志納、特別ご志納等、ご協力いただき、ありがとうございました。

8月末までの報告をいたしたいと思えます。

写経納経料	869,000 円
銅板、真鍮板志納	1,116,000 円
特別志納金	3,107,000 円
計	5,092,000 円

お像および台座、周囲の環境整備等含めまして、約 10,000,000 円かかる予定です。
写経やご志納は今後とも引き続き、受け付けますので、よろしくお願い致します。

久留米市佛教会 佛教文化講演会 音楽法要

カーラビンカ合唱団が出演します。

期 日 平成24年10月23日(火)
時 間 午後1時30分
場 所 石橋文化センター共同ホール

カーラビンカ合唱団 創立5周年コンサート

期 日 平成24年12月16日(日)
時 間 午後1時30分開場 午後2時開演
場 所 無量寺1階講堂にて
内 容 第1部 音楽法要
第2部 創作オペラ 竜の涙